



いしかわ労福協

第 574 号 2015年11月25日

発行所 石川県労働者福祉協議会
発行責任者 西田 満明
編集人 上野 貞彦
〒920-0024 金沢市西念3丁目3番5号
電話 (076) 231-1737
FAX (076) 231-1731
http://www.ishikawa-rofukukyo.jp
info@ishikawa-rofukukyo.jp
毎月1回 25日発行

労働者・生活者の福祉向上へ、 来年度の政策・制度などを要請



和田慎司小松市長



辻角羽昨市副市長

石川県労働者福祉協議会は、各自治体担当者への事前説明等を済ませた10月22日(木)に野々市市以南の6市町、26日(月)から27日(火)にかけて津幡町以北の12市町の各自治体首長を、柚木光副理事長を先頭に浅野正専務理事、鈴木隆史北陸労働金庫石川県副本部長らに加え、関係自治体の協力議会議員と地元地域ライフ・サポートセンター代表者も同行して訪ね、労働者等の福祉の向上にむけた来年度の政策・制度等に関する要請を行った。

各自治体首長らには、公務多忙の中を快く面談いただき、要請事項については真摯に受け止める対応がなされた。

首長らからは、住民に対するサービスの向上には一気呵成にはできない点もあるが、安心・安全に暮らせるよう充実させていきたいとの他、自治体が進める福祉の向上への施策・サービスなどの取り組みが説明されるなど、目的達成には相互の協力・連携が大切など、意見交換がされる要請活動となった。

今後、11月30日(月)には谷本正憲石川県知事を訪ね、12月1日(火)には山野之義金沢市長を訪問して今年度における要請行動を締めくくる予定。



高塚能美市副市長



廣瀬中能登町副町長

UPI! 2015
広くしよう
みんなの暮らし
生活向上・福祉強化キャンペーン

給付型奨学金制度の導入・拡充と 教育費負担の軽減を!

大学の学費の高騰と家計収入の減少により、今や大学生の2人に1人が、何らかの「奨学金」を利用しています。さらに、不安定雇用や低賃金労働の拡大により、卒業しても返済に苦しみ、「返したくても返せない」人たちが増加しています。このままでは、奨学金返済(借金)の重荷で、結婚や出産、子育ても困難になり、少子化・人口減を更に加速しかねません。未来を担う若者を社会全体で支え、持続可能な社会にするため、奨学金制度の改善と教育費負担の軽減を求めて声をあげましょう!

変えよう! 奨学金 署名活動実施中 2015 生活向上・福祉強化キャンペーン



大衆運動活動家合祀追悼会

石川労福協、連合石川などで取り組む石川県大衆運動活動家顕彰会実行委員会は、11月23日(月・祝)に金沢・卯辰山の顕彰碑前において、政治、労働、文化の分野において平和、民主主義の発展、教育、福祉、環境等の向上のために尽力し故人となった方を合祀追悼した。

顕彰碑前には遺族関係者や実行委員ら30数名が列席し、西田満明顕彰会会長(石川労福協理事長、連合石川会長)が「合祀される方が生前に行ってこられた大衆運動にかかる偉大な功績を称え、感謝申し上げる。」との挨拶に続き、浅野正石川労福協専務理事が顕彰会設立趣意書を朗読。事務局から今回合祀する1名の方を紹介し、名前を記したプレートを顕彰碑に納め参列者が献花し冥福を祈った。

顕彰式に続き、金沢市西念のフレンドパーク石川に会場を移して行った感謝の集いでは、今回合



顕彰碑前にて

祀される方の在りし日の思い出などが推薦団体関係者や遺族から語られ、故人を偲びつつ運動の継承を確かめる追悼会となった。

今回合祀された方

下村 正一さん 享年 99

石川県勤労者文化協会顧問・金沢美術工芸大学名誉教授

これからの行事予定

(11月25日現在)

開催日	曜日	行 事	会 場
11月25日	水	白山市働く人に優しい企業表彰式	白山市役所
27日	金	食みどり水 NW 全国大会 (～28日)	県地場産業振興センター
〃	〃	中央労福協 第62回定期総会	東京都
30日	月	労福協 自治体要請 石川県知事要請	県庁
12月1日	火	労福協 自治体要請 金沢市長要請	金沢市役所
4日	金	労福協ライフ・サポートセンター 福祉なんでも相談アドバイザー会議	フレンドパーク石川
8日	火	中部ブロック会館協議会 第2回幹事会 (～9日)	三重県
〃	〃	北陸3県連合・労福協・労金連絡会議	北陸労働金庫
10日	木	社会法律センター 定時総会	北陸会館
12日	土	さわやかU 餅つきボランティア	金沢市
14日	月	北陸ブロック労福協 幹事会 (～15日)	福井市
16日	水	労福協 第7回理事会	石川県自治労働会館
1月5日	火	連合石川・石川労福協合同「2016新春の集い」	ANA クラウンプラザホテル金沢

労福協第6回理事会



第6回理事会

労福協は、11月10日(火)フレンドパーク石川において第6回理事会を開催した。

理事会には、理事監事ら14名が出席し、これまでの取り組みとしてライフ・サポートセンターや子育て支援ネットによる活動、2016年度自治体要請行動、中部労福協研究集会、2015生活底上げ福祉強化キャンペーン街宣行動、鬼怒川氾濫被災地支援ボランティア活動などの取り組み状況の報告を了承した。

また、本年度中間決算報告及び同監査報告、フレンドパーク石川の施設更新、第12回ライフ・サポートセンター研修会開催などを提案どおり承認した。



西田新理事長

さらに、理事会では、さる10月28日開催の連合石川定期大会において会長・事務局長が交代したことを受け、狩山久弥氏より辞任の旨が申し出されており、労福協理事長を西田満明理事(連合石川会長)に交代することと理事1名の後任を連合石川に要請するとの人事案件が提案され、お疲れさまでした理事長・代表理事に西田満明理事を満場一致で互選し、狩山氏から西田氏へ理事長を交代した。



狩山前理事長

狩山前理事長に対し、永年にわたる労福協事業への取り組みについて拍手で感謝した。

関東・東北豪雨による鬼怒川水害被災地支援ボランティア



土砂搬出作業

9月10日からの豪雨により氾濫した鬼怒川は、栃木県、茨城県に大きな被害をもたらした。

特に茨城県ではその被害が甚大で今なお避難生活を余儀なくされている方が多くおられる。

石川労福協は、被災地支援ボランティアを派遣するため、連合石川、事業団体などに参加を呼びかけ、19名を10月29日の深夜から31日にかけて派遣した。

目をこすりながらの集合出発で、初日はバス車中泊の強行軍でしたが、全員、現地のボランティアセンターの指示による被災地現場でのボランティアに勤しんだ。

今回作業した場所は、鬼怒川堤防を越水した箇所にはほど近い被災地で、川から運ばれた土砂が敷地や家屋に堆積するなど正に被災地の中心部的なところであった。

常総市石下支所にあるボランティアセンター石下サテライトから、マイクロバスに乗り換え、途

中、大型ショッピングセンターの屋上駐車場で避難した映像がニュースで報道された店舗を横目に見て約15分の移動をして若宮戸公民館で機材を持ち現場に入った。

早速、参加者全員一致団結して、スコップや一輪車を手に作業に入り、求められた場所の復旧を行うことができた。

当日は、天候にも恵まれ作業もし易く汗ビショリとなったものの、全員ケガもなく終了することができた。

その日は、作業終了後、宿泊先で汗を流し夜行移動に続いての肉体労働の疲れを癒した。参加された皆さんのお陰で、僅かながら被災地へのご支援ができたものと考えている。



若宮戸公民館前で活動を終えて

第12回ライフ・サポートセンター研修会



ウイズの栄氏と吉尾氏

労福協・ライフ・サポートセンターは、11月16日(月)白山市「グランドホテル白山」に

おいて、第12回ライフ・サポートセンター研修会を開催した。

研修会には、9地域ライフ・サポートセンター、連合石川4地協、北陸労金石川県本部、全労済石川県本部、石川労信協から34名が参加し、柚木光労福協副理事長が「日頃からの労働者・退職者等の福利向上へのご尽力に感謝申し上げる。昨年度のライフ・サポートセンター活性化委員会の提言を踏まえて活動の更なる取り組みにお



柚木副理事長

いて、重要課題に位置づけ「奨学金問題」に取り組まれることを願う。加えて、労働者自らが推し進める労働者福祉事業団体の事業を地域で支える展開にも引き続き協力を願う。」と開会の挨拶をした。

初めに来年から施行されるマイナンバー制度に関し、社会労務士法人ウイズの栄重光氏と吉尾双輔氏が、「本来、社会保障・税・災害対策に限って公平・公正な社会実現のために使用するとし、この制度が制定されたが、施行前に更に預貯金、医療の面でも活用できるよう法改正がなされた。このような状況から、遠くない将来にはマイナンバーで全ての個人情報把握できるものとなると予想される。」と判り易く説明した。

マイナンバーについては、既に各人への配布が進んでいるようだが、その保管と取扱は個人を特定する重要なものだけに慎重を期さなければならぬとのことであった。

続いて、福祉事業団体の要請として、北陸労働金庫石川県本部から大学等への進学を控えた保護者に向けた進学費用や公的制度と教育ローンをもとめた冊子を紹介したのに続き、石川地区における預金・融資獲得への取り組み状況、

「創立15周年にかかるキャンペーン実施」について鈴木隆史北陸労働金庫石川県副本部長



鈴木北陸労金
石川県副本部長



織田全労済石川
事業推進部次長

が説明するとともに各種融資の更なる利用について協力を求めた。また、全労済からは「共済の利用状況やマイカー共済の制度改正と自賠責共済」について織田泰範全労済石川事業推進部次長が説明・紹介するとともに加入拡大への協力を求めた。

最後のカリキュラムの「奨学金問題」について、大塚敏夫中央労福協事務局長が「大学生の2人に1人が利用している日本学生支援機構の奨学金



大塚中央労福協
事務局長

は、労働環境や社会構造の変化により親世帯の収入減に加え教育資金の高騰が影響し有利子枠の奨学金が拡大していることや、大学を卒業しても生活と奨学金返済に賄える賃金を得られない労働環境が若者を更に苦しめていると問題

点を説明するとともに、このような現状を踏まえば尚のこと給付型奨学金制度の創設が必要であると説明し、これから社会運動へと展開していきたい。」と奨学金にかかわる若手労働者の苦悩を訴えた。

この後、参加者からは「奨学金という制度があったお陰で今日の自分がある。せめて、もっと利用し易い制度としていくべきだ。」などと意見が出され、これまで、問題の焦点が分かり難い問題であったが見えてきた感のあるものとなった。

最後に浅野正専務理事が「今日の学習を糧にこれからのライフ・サポートセンターの活動に生かして欲しい。そして、労働者福祉事業の発展とともに地域への運動の拡大をお願いしたい。」と研修会を締めくくった。

奨学金問題の啓発街宣行動



武蔵が辻交差点にて

石川労福協は、11月6日(金)のお昼時に金沢市内武蔵が辻交差点と香林坊交差点において、奨学金問題の解決に向けた啓発街宣行動を行った。

街宣行動には、富瀬永県議会議員、浅野正労福協専務理事が立ち、それぞれの立場で、教育にかかる負担軽減や奨学金利用の負担軽減と給付型奨学金創設に向け訴えた。

国の負担軽減と受益者負担の観点から、学校への補助削減に伴う授業料の値上りと経済の変化による雇用状態の悪化で収入減となる親世帯の現状により、大学生の2人に1人は奨学金を利用せざるを得ない状況にある。さらに、大学生によっては、親の仕送り減などによりアルバイトのウェイトを高めなければならない過酷な状況で学生生活を余儀なくされている人もいる。そして、大学を卒業しても就職できなかったり、非正規雇用であったりと、生活と返済に十分な収入を得られない若者は、卒業後に始まる奨学金の返済に窮し、最悪、破綻する人もいるほどである。

返したくても返せない。返さなければ保証人にも迷惑をかけるなど、行き場の無い苦しい現状にある若者も多い。

日本の将来を担う若者世代が伸び伸びと活躍し易い環境を提供できる奨学金制度、社会であってほしいものだ。

海外支援米発送式



支援米の積み込み

食とみどり、水を守るいしかわネットワーク(食とみどり水NW)は、11月7日(土)金沢市西念のフレンドパーク石川において海外飢餓支援米発送式を行った。

発送式には、海外飢餓支援米の取組みに賛同する富瀬永県議会議員、支援米の田植えから稲刈りまで実際に取り組んだ子どもを含む関係者等約40名が参加し、浅野正副代表と富瀬県議会議員がそれぞれ挨拶した後、亀喜事務局長が支援米の取組み経過について報告し、支援米の稲刈りの時に子ども等が書いたメッセージを米袋に貼り付け輸送船のある横浜港に向けトラックに積み込み発送された。横浜港では、全国から集められた支援米と合わせ贈られることとなる。

発送式に続き、支援米の取組みで収穫した米で作ったおにぎりと、役員が作っためった汁を参加した全員で収穫の喜びと食料の大切さを噛みしめながら味わった。最後に狩山久弥代表が「支援米の取組みについては、皆さんの協力で田植えから稲刈り、そして今日の発送となった。今後の取組みとしては、十数年ぶりに地元で開催する食とみどり水を守る全国集会、今年度の取組みを締めくくる総会となる。来年も引き続き皆さんの協力で取組みを継続していきたい。」と今年度の支援米の取組みを締めくくった。

なお、今年度は、能登町、七尾市、小松市、金沢市の計4ヶ所において作付けし1,110kg(37袋)を収穫、アジアのカンボジアとアフリカのマリ共和国に贈られる。



昼食会で支援米などの取組みを報告

植林ボランティア



クヌギ植林

10月24日(土)～25日(日)「第7回おらっちゃんの森づくり運動(主催：NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海)」が珠洲市三崎の里山里海自然学校と同市東山中町のクヌギ植林地で開催された。

この活動は、荒れ果てた里山を本来の美しい姿に戻すとともに里山が持つ機能を取り戻そうとクヌギ植林活動を通じて里山づくり運動として行っている活動です。

今回のクヌギ植林活動では、これまでの植林で大きく育ったクヌギの枝打ち、生育の悪い木の周りへの土盛りや肥料散布を行った。また、枝打ちで出た小枝はチップにして肥料として土に戻す作業も行った。

さらに、ペットボトル(500cc)を利用したク

ヌギの苗を育てる作業にも取り組み、より整備されたクヌギ林とする準備も行った。



地元中学生も加わり活動

これらの活動には、主催のNPO関係者のほか、食みどり水を守る石川NW、連合石川、同能登地協、労福協、珠洲・能登LSCからも参加したほか、地元の宝立と三崎の両中学校生徒ら約70名が参加した。

25日(日)は、クヌギから生産されるお茶炭の製造現場や植林地の森の見学をし、今回の活動を終えた。

なお、この活動に先立ち18日(日)～19日(月)にかけて植林地の下草刈りボランティアに連合石川の能登地協・かなざわ地協などと共に労福協も参加し、植林活動への準備を行った。

労福協職員 太田 敏信

勤 体 協

第49回県勤労者秋季大会

《第15回クライミング大会》

11月1日・金沢市医王山SC

◇一般

- ▷男子 ①畠中実(金沢)②醍醐隆史(金沢)
- ▷女子 ①中島亜希(金沢)②木津佳子(野々市)③雲井奈津代(小松)

◇シルバー

- ▷男子 ①南川光生(野々市)②本谷賢門(白山)③塚本吉弘(金沢)
- ▷女子 ①畠中郁美(金沢)②南川聖子(野々市)③東出直美(白山)

◇ゴールド

- ▷男子 ①中島昭二(金沢)②林昭男(白山)③亀田行宣(白山)
- ▷女子 ①岡田美智江(野々市)②中村まさ子(金沢)③向出照子(加賀)

◇オープン

- ▷ジュニア男子 ①折田晃斗
- ▷ジュニア女子 ①本谷佳乃子

《弓道大会》

11月8日・小松市桜木弓道場

◇団体

- ①金沢市ANK(荒谷征央、中田守、喜多春華)
- ②鶴来弓友会B ③鶴来弓友会A

◇個人▽男子

- ①喜多春華(金沢市ANK)②藤部房男(鶴来弓友会A)
- ③登内政徳(鶴来弓友会C)

▷女子

- ①浅香直美(小松市A)

②吉村裕子(滝本鉄工所)③中出千尋(鶴来弓友会B)

《卓球大会》

11月15日・七尾市中島体育館

◇硬式

- ▷男子 ①チームバンビ②S-55③RATEL、NTT北陸
- ▷女子 ①NOTOヤンキース星②勤体協③粟崎公民館A、NOTOヤンキース月

◇ラージ

- ▷男子 ①白山クラブA②中島クラブ③能美クラブ、あすなる
- ▷女子 ①ななおクラブ②チームかがやき③中島クラブ、内灘クラブ

《第46回県勤労者ボウリング選手権》

11月23日・金沢市のジャンボボール

◇団体(2チーム戦、1人3ゲーム)

▷1部

- ①HKチーム1310②チーム泉1272③チーム漣1252

▷2部

- ①倉友クラブA1244②オデッセイ1203③うさぎA1200

◇個人(3ゲーム)

▷1部

- ①蔵野博久(チーム漣)700=ハイゲーム300
- ②泉真也(チーム泉)673③(1)堂前秀雄(HD)616

▷2部

- ①宮沢健三(I&M)595②今井実(I&M)594
- ③宮嶋一雄(倉友クラブD)590 ハイゲーム・小川孝司(倉友クラブC)236

▷3部

- ①鳥健治(HKチーム)702=ハイゲーム264
- ②後藤省吾(倉友クラブA)679③有田登美子(JL・BC)651